

なぜ、国内への人口移動が進んだか。

長野県は全国で6番目
安曇野市は県で5番目

安曇野市は、外国籍の皆さんが多く暮らしています。

この11月1日現在で、市に外国人登録をする皆さんは2,254人いて、市人口の2.2%を占めています。日本に暮らす外国人は総人口の1.5%であることから、全国的にみても比率が高いことが分かります。そして、約

半分、1,027人がブラジル国籍です。日本に暮らすブラジル人は、約27万人。長野県は全国で6番目、安曇野市は県で5番目に多く生活しています。

ちなみに、ブラジル人が多く住むまちとして有名なのは、愛知県の豊田市、静岡県の浜松市、群馬県の太田市や大泉町などです。

これらの都市は、自動車工場などの製造業が盛んな都市という点で共通しています。

サンパウロ市
南米最大の近代都市で主要産業が集中する経済の中心地。人口は約1,090万人で、ブラジル全体の6%が集中している。



日本・ブラジルの人口移動

日本は戦前から高度成長期を迎えるまで移民を送出。バブル期には入管法改正により日系人の受け入れが拡大しました。



ブラジルへ

- 戦前移民 (1908年に781人が渡ってから18万9,000人)
- 戦後移民 (5万3,000人)
- 現在推定日系人は130万人

日本へ

- ブラジル国籍の外国人登録者数 27万4,000人 (うち長野県は1万8,000人)
- 現在、安曇野市には1,027人のブラジル人が暮らしている

日系人の州別人口分布

日系人口はサンパウロ州に集中している

サンパウロ州	32万5,520人 (75.7%)
パラナ州	7万8,097人 (18.1%)
マット・グロソ州	8,886人 (2.1%)

※国際協力事業団、長野県、安曇野市資料から作成

1990年が転機

外国人登録人口に変化が表れたのは、90年代半ば。

市で最も人口の多い穂高地域では、90年には113人だった外国人登録人口が、2005年には1,036人に急増しました。国籍別にみるとブラジルが圧倒的に多く、95年に247人だった人口が、2005年には587人になっています。

このきっかけになったのは、90年の「出入国管理法および難民認定法」(入管法)の改正です。この改正では、日系人を受け入れるための在留資格が新設されました。

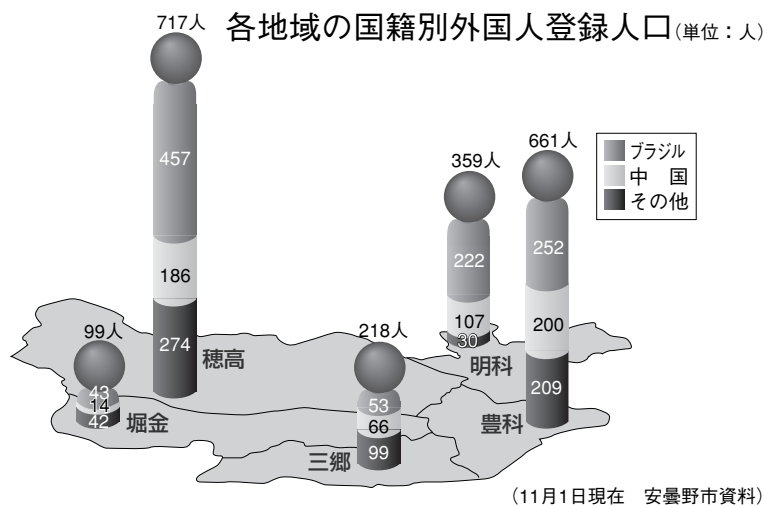
具体的には、日系1世で日本国籍を

放棄した人や2世には「日本人の配偶者等」の在留資格を、日系3世とその配偶者には「定住者」の在留資格を申請できるというものです。

これらの資格の在留期間は1〜3年。旅行などの短期滞在で来日した場合でも、滞在中に資格変更手続きが可能で、滞在期間を更新することができます。そして、就労は制限がなく、ほとんどの職種に就くことができます。

卵が先かニワトリが先か

この資格の新設は、日本人との血縁的つながりに着目したもので、直接的には、国内の経済効果などをねらいとするものではありませんでした。



工業都市としての安曇野

観光産業や農業のイメージが強い安曇野市。その一方では、工業都市としても強い地盤を持っています。

2005年の工業統計調査(速報)によると、安曇野市の「製造品出荷額」は8,597億19万円(前年比136%増)で県内トップ。2位である松本市の5,113億1,339万円を大きく上回っています。

また、同調査の「原材料使用額等」は5,341万900万円で、こちらも県内最

大となっています。この数字は市内の工業系メーカーに力があることを表しています。

今年行われた国勢調査に目を転ずると、15〜64歳の人口は、県全体では4万8,258人(2.2%)減少している中、市は721人(0.9%)増加しています。このことから、市内もしくはその近郊において、雇用の需要があることが推測できます。